

新庄

SHINJO

水のおく 氷室尋る 柳哉

「氷室」とは、天然の氷を夏まで貯蔵するための穴や小屋のこと。「こんな冷たい清流が流れてくる源にはきつと氷室でもあるのだろう」と詠んだものです。

高野一栄・高桑川水らに送られ、大石田をあとにした芭蕉主従は、尾花沢で知り合った渋谷甚兵衛（風流）宅に2泊し、歓待を受け、地元の俳人と巻いた歌仙を残しています。

また、旧羽州街道の新庄城下南入り口に、芭蕉史跡「柳の清水」があり、風流亭で芭蕉が詠んだ句「水のおく氷室尋る 柳哉」の句碑が建てられています。

新庄は、最上地方の中心でかつては新庄藩6万石の城下町として栄えました。当時の城跡は、現在、最上公園として残っており、春の「かど焼きまつり」、夏の「新庄まつり」など、四季折々のイベントが繰り広げられます。

近くには芭蕉主従が最上川を舟で下った乗船場（本合海）があり、川岸には芭蕉と曾良の陶像が行んでいます。

新庄ふるさと歴史センター

約250年の伝統を誇る新庄まつりの山車、さらに当地域の先人たちの暮らしがわかる歴史民俗資料が展示されている。



芭蕉句碑



新庄温泉

城下町新庄の郊外最上川左岸の丘陵地にある温泉で、地元最上川の川ガニ料理をめぐって毎年訪れる常連客も多い。



芭蕉の句碑と柳の清水跡

「柳の清水」は昭和前期まで清水が湧き出していたところ。この場所には芭蕉も立ち寄り、清水をのんだのかもかもしれない。



交通／奥羽本線新庄駅下車

古口

FURUKUCHI

最上川はみちのくより出て
山形を水上とす
『奥の細道』より

藩政時代古口に舟番所があり、当時は印判所といわれ、最上川を行き来する舟の監視をしていました。本合海から舟客となった芭蕉主従は、古口で舟を乗り継ぎ川を下りました。

最上峡（古口から清川間）は、両岸に屹立した山が迫り景観にすぐれ、※**仙人掌**、**白糸の滝**など義経の伝説が今に語り継がれています。ここを訪れたら、ぜひ体験していただきたいのが最上川の舟下りです。四季を通じて船頭の「最上川舟唄」を聞きながら約1時間の川下りが楽しめます。

※「**仙人掌**」は、源義経の家に常陸坊海尊を祀っています。海尊は仙術を使い、長生きをしたといわれています。

草薙温泉

最上川周辺観光の拠点となる温泉地。最上川のなかで最も美しい景観を誇る白糸の滝が湯舟から望める。

高麗館

日韓友好の村「高麗館」は、食をはじめ、民族文化、物産などさまざまな角度から友好を結ぶ施設となっている。



戸沢藩船番所(舟下り乗船所)

最上川中流部である古口から草薙間約12キロの舟下りをする舟下り乗船所。大型の駐車場もあり便利。



白糸の滝

山ノ家杉

樹齢1000年を超える老杉ながら、巨大で、太い物は幹周りが15mも。最上峡一帯に見られる天然杉で土湯杉、神代杉、仙人杉とも呼ばれている。



交通／陸羽西線古口駅より徒歩7分